

生活環境を共有するシモキタの都市生活

2006年12月18日

原告 志田歩

1. はじめに

1988年から代沢五丁目に住んでいる志田歩と申します。

私の下北沢との関わりは、大学時代に友人が住んでいたことから始まっています。大学を卒業し、情報誌の「ぴあ」に就職してからしばらくは三軒茶屋に暮らしていましたが、246（国道246号線）で分断された駅前の様子に馴染めず、下北沢の雰囲気惹かれて移り住んで以来、すっかりこの街のとりことなっています。

2. 下北沢の良さ

私が出北沢に住むようになって素晴らしいと感じたのは、街がコミュニティとしての機能を強く持っている点です。住んでいる者や商店で働く人が中心となり、買い物に来る人も巻き込んで、互いに顔見知り同士となって言葉をかわしあうのが当たり前の人懐っこさと言い換えても良いでしょう。

現代的な都市生活というと、隣人の顔も知らないような環境が連想されがちですが、少なくとも私が送ってきた「シモキタの都市生活」はその対極で、むしろ生活環境を共有しているという漠然とした連帯感で結ばれています。それゆえに誰かが入院したり不幸があった時に、タテマエで無く本気で心配しあったり励ましあったりするので（写真資料2）。

実際に私がこの街の人情味を最も強く感じたのは、亡くなった友人の追悼イベントの企画に、会場を提供してくれたバーのマスターの熱烈な協力を得た時や、そのマスターが亡くなった時の追悼イベントに参加した時でした。その主軸をな

すのが町会のようなシステマティックな組織ではなく、飲み屋の常連同士のようなゆるやかなつながりであるため、拘束感も少ないのです。

近代化が進んだ日本の中でこうした温かみのある街があることは、ある種奇跡的と言っても過言でないと思います。

3. 下町との比較

私は昭和 36 年に東京都の葛飾区金町で生まれ、大学に入るまでそこで育ちました。実家は今も金町にあります。隣町の柴又が“フーテンの寅さん”で有名であることから察せられるように、いわゆる下町と呼ばれる地域です。金町では、私の親の世代の人たちは地域に根ざした人間関係を営んでいます。しかしその子供である私たちの世代には、そうした関係性は引き継がれているとはいえません。街のあり方が変わってしまったからです。

そのきっかけは私が幼い頃に建設された国道 6 号線（水戸街道）のバイパスだったと思います。実家の目前に高架の道路ができ、駅周辺には高層住宅が作られ、ベッドタウン化の波が押し寄せました。

確かに人口は増えました。しかしそれまでの住民と接点を持たない新規住民は、昔からの商店街で買い物をしないのです。私の小学校の同級生の実家が多い商店街は、客が減ってさびれていき、店がつぶれた後には駐輪場や駐車場などができました。昔ながらの住民とベッドタウン化後の新規住民の接点は少なく、住む者同士がお互いに無関心となっていきました。その結果、問題となるのは治安の悪化です。金町で生活している私の弟の家にも先日空き巣が入りました。

顔見知り同士により生活環境を共有しているというゆるやかな連帯感で結ばれた下町としての魅力は、残念ながら過去のものとなりつつあるようです。

4. 安全・安心なまちづくりとは？

行政は「安全・安心なまちづくり」というフレーズをお約束のように使ってい

ます。補助 54 号線の計画にも、防災を口実に掲げたりしています。

しかしこの道路により街を分断し、地区計画による高層化の誘導が実現すると、大規模な住民の入れ替えが起こります。今までの下北沢は古くからの住民と新規住民が接点を持ちつつ変容してきましたが、ここまでの大規模な改変は、この街が持ってきたコミュニティ機能を確実に損なうことになるでしょう。

仮に震災に見舞われたとしても、温かみのある連帯感や人情味を共有する街に較べたら、住民同士が互いに無関心な街は、はるかに危険であると私は思います。現在あるコミュニティ機能を破壊するような道路の建設とそれを前提とする高層化の誘導は、あまりにも愚かな選択です。

そもそも防災について考えるなら、地下化工事が始まっている小田急線の跡地を有効活用する術が語られるべきですが、行政はいっさいそうした情報は出していない。また高架を前提とした道路用地をそのまま使うという進め方には、街の現状に適した道を作ろうという本来行政が持つべき使命感のカケラも感じられません。

5. 職業人として

私は音楽や映画について書いた文章の原稿料で生活する著述業者であり、同時に音楽活動もしながら下北沢に住んでいます。様々な背景を持つ人が互いへの関心を持ちつつ新たに出会えるこの街のコミュニティ機能は、まさに私が文章や音楽で描くためのテーマを提供してくれます。そうした環境が損なわれるのは、漁師が漁場を、農民が農地を奪われることに等しいのです（写真資料 2）。

真に「安全・安心なまちづくり」を望む住民の一人として、また職業上の利害関係者として、第一期工区の事業認可の取消しと第二期、第三期工区の事業認可の差し止めを求めていきたいと思います。

以上



1. ピュアロードのフリーマーケット
気さくに声を掛けあえる人懐っこい空気感が魅力だ



2. 下北沢をテーマにした私のCDジャケット
雑居感覚を活かすために下北沢のロック・バー店内で撮影した